

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月29日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考
							二次評価結果 評価結果	
那須塩原市地域公共交通会議	ジェイアールバス関東株式会社	西那須野線(黒磯線乗入黒磯駅直通) (西那須野駅~那須塩原駅~黒磯駅)	・鉄道との接続等のダイヤ見直し ・効果的なPRの実施 ・近隣市町との運行ダイヤの調整	A 適切に実施した	C ・目標 キロ当たり輸送人員【目標】4.0人→【実績】3.9人(令和4年度実績:3.8人) ・目標を達成できなかった理由 令和4年度との通学定期券の発売枚数の伸び率が6.9%と増加傾向にある。しかし、通勤定期券の伸び率が2.2%と伸び悩んでいることから、一般利用者の移動手段の変更が未だに影響していると推測されます。	新幹線からの接続を改善し、新たな乗客の確保を図るとともに、近隣市町のバスとも運行ダイヤを調整することで、乗り継ぎ時間の短縮を図る。また、近隣市町のバスと共通定期券等の対象券種の拡大の検討を進め、通院・買い物利用だけでなく、市域を跨ぐ通勤・通学の生活交通としての機能を強化し、近隣市町と協力して相互に利用者数を増加させて、収支率の改善に努める。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、設定した目標を大きく下回る結果となった。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・引き続き鉄道や近隣市町のバスとの接続を考慮し、効果的な利用者利便の向上が図られることを期待したい。	
第三者委員会における各委員からの意見								
<p>令和5年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。 ○コロナ後の動向や人手不足など様々な側面で今が変わり目である。 ○地域とコミュニケーションをとりながら、データに基づき地域全体の将来像を打ち出し具体的な目標を立てて、成果や課題など数字で示すことが重要。</p>								